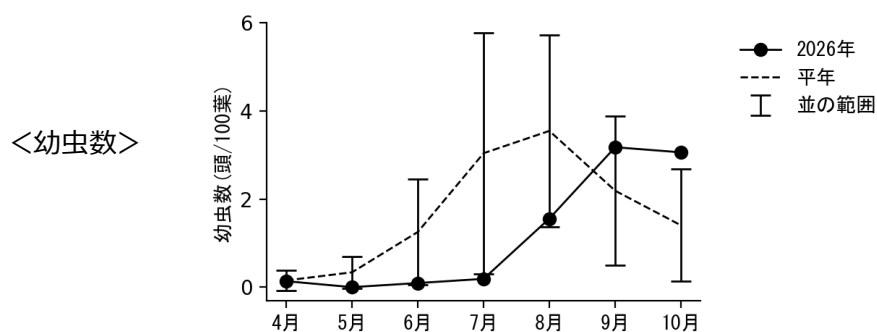
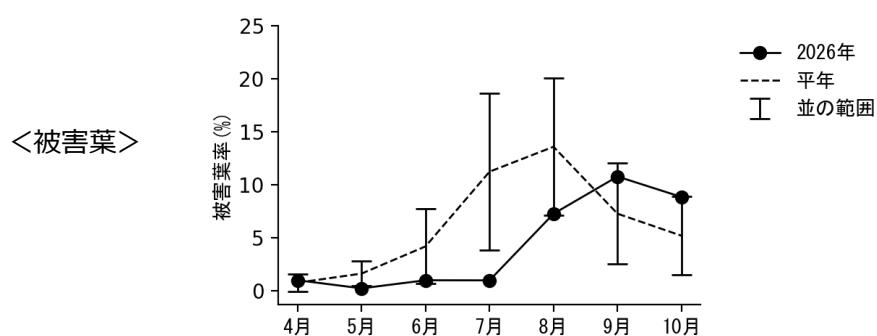


作物	カンショ		地域	沖縄群島
病害虫名	イモキバガ（イモコガ）			
調査結果	10 月の発生量（平年比）	並		
予 報	10 月からの増減傾向	—		
	11 月の発生量（平年比）	—		
予報の根拠				

調査結果

今期と平年の発生推移



・発生ほ場率100%（平年：88.0%）

防除のポイント

- ・老齢幼虫になると薬剤の効果が低下するので、若齢期の防除が重要である。
- ・収穫時に刈り取った茎や屑イモ等の収穫残さは発生源となるためほ場外へ持ち出す。

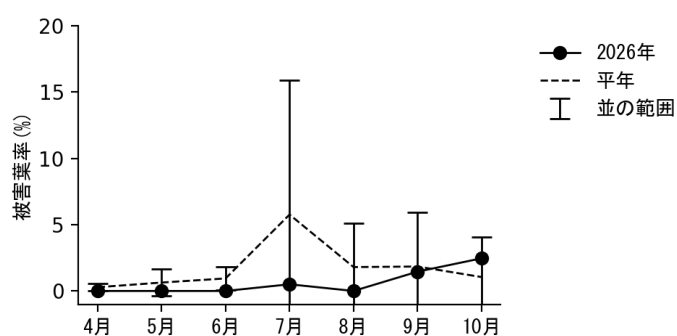


作物	カンショ		地域	沖縄群島
病害虫名	ナカジロシタバ			
調査結果	10 月の発生量（平年比）	並		
予報	10 月からの増減傾向	—		
	11 月の発生量（平年比）	—		
予報の根拠				

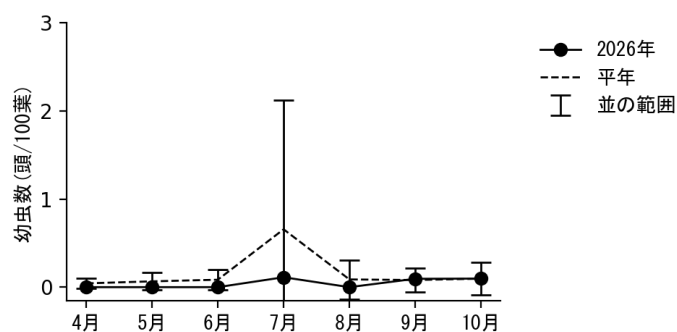
調査結果

今期と平年の発生推移

<被害葉>



<幼虫数>



・発生ほ場率12.5%（平年：28.0%）

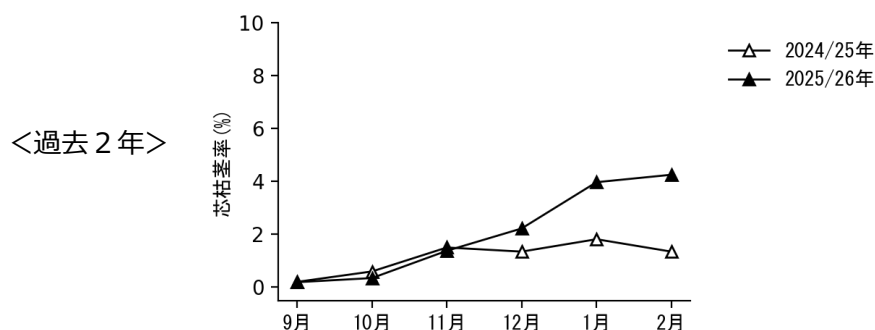
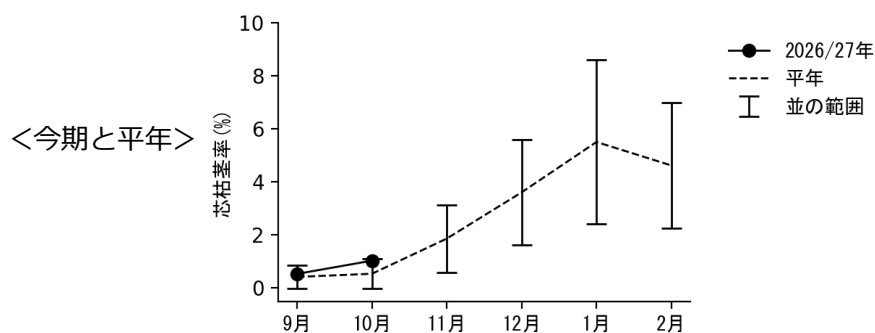
防除のポイント

- ・老齢幼虫になると薬剤の効果が低下するので、若齢期の防除が重要である。
- ・収穫時に刈り取った茎や屑イモ等の収穫残さは発生源となるためほ場外へ持ち出す。

作物	さとうきび		地域	沖縄群島
病害虫名	① メイチュウ類（カンシャシンクイハマキ・イネヨトウ）			
調査結果	10 月の発生量（平年比）	並		
予 報	10 月からの増減傾向	↗		
	11 月の発生量（平年比）	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移（↗）		

調査結果

芯枯茎率の推移（夏植え）



・発生ほ場率29.4%（平年：34.3%）

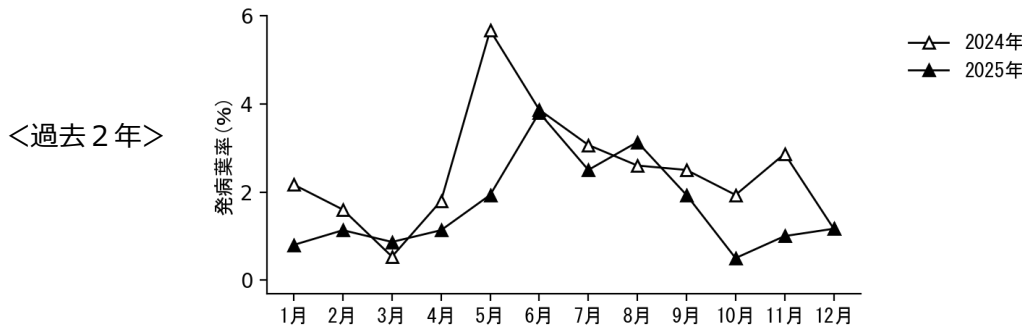
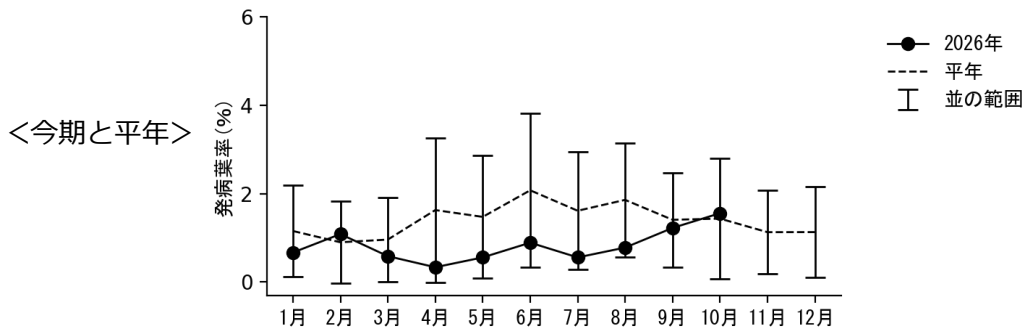
防除のポイント

- ・ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・植え付け時及び培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。
- ・茎葉への乳剤等の散布は、葉鞘と茎のすき間に十分な薬液が入るように丁寧に行う。

作物	かんきつ（温州みかん）		地域	沖縄群島
病害虫名	そうか病			
調査結果	10 月の発生量（平年比）	並		
予報	10 月からの増減傾向	↘		
	11 月の発生量（平年比）	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移（↘）		

調査結果

発病葉率の推移



- ・葉の発病度0.3（平年0.4）
- ・発生ほ場率100%（平年：58.0%）

防除のポイント

- ・罹病葉・枝は伝染源になるので除去する。

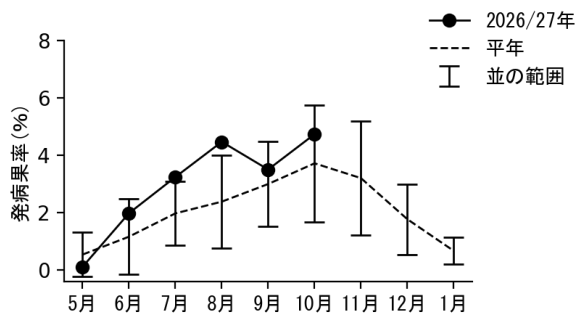
被害果→



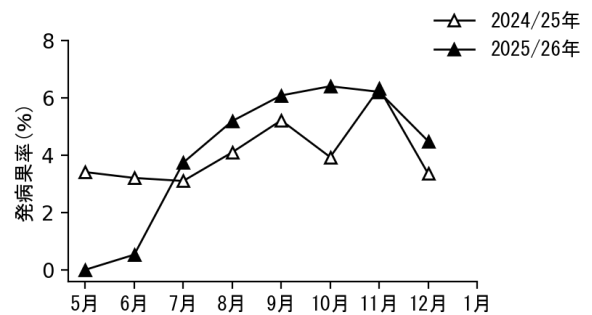
作物	かんきつ（タンカン）		地域	沖縄群島
病害虫名	① かいよう病			
調査結果	10 月の発生量（平年比）	並		
予 報	10 月からの増減傾向	↘		
	11 月の発生量（平年比）	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移（↘）		

調査結果

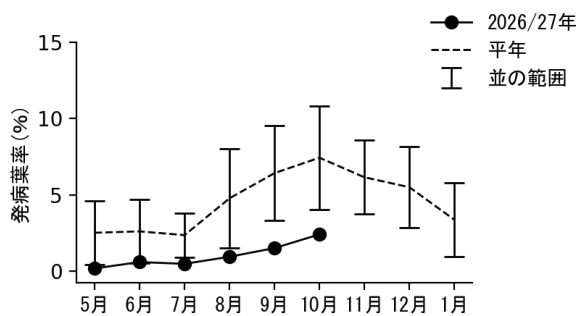
発病果率の推移（今期と平年）



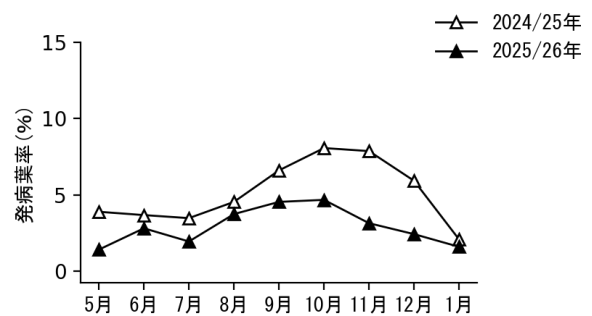
発病果率の推移（過去2年）



発病葉率の推移（今期と平年）



発病葉率の推移（過去2年）



- ・ 果実の発病度0.9（平年0.8）
- ・ 発生ほ場率60.0%（平年：88.0%）

防除のポイント

・ 本病はミカンハモグリガによる食害痕から発生しやすく、翌年の伝染源になるので、ミカンハモグリガ被害葉の除去に努める。

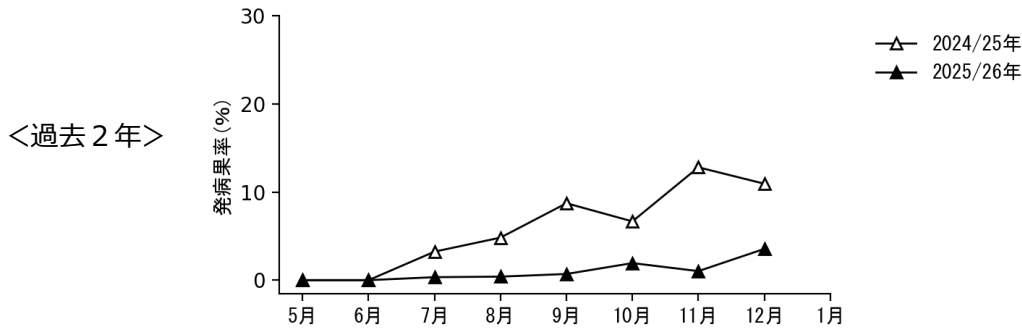
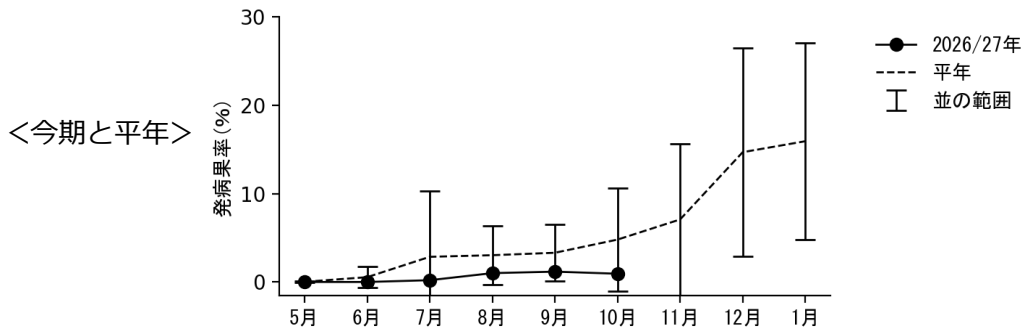
被害葉→



作物	かんきつ（タンカン）		地域	沖縄群島
病害虫名	② 黒点病			
調査結果	10 月の発生量（平年比）	並		
予報	10 月からの増減傾向	↗		
	11 月の発生量（平年比）	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移（↗）		

調査結果

発病果率の推移



- ・ 果実の発病度0.2（平年1.2）
- ・ 発生ほ場率40.0%（平年：60.0%）

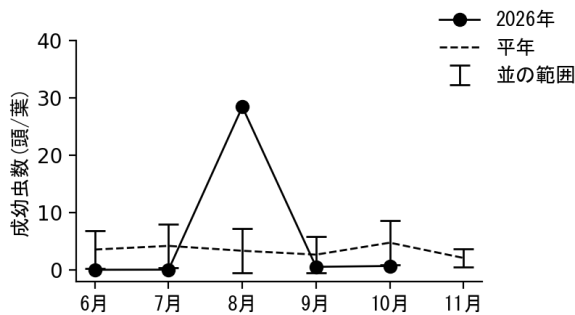
防除のポイント

- ・ 罹病葉・枝は伝染源になるので除去する。

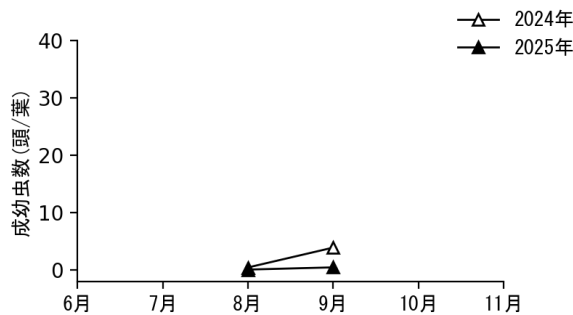
作物	マンゴー		地域	沖縄群島
病害虫名	① チャノキイロアザミウマ			
調査結果	10 月の発生量（平年比）	並		
予 報	10 月からの増減傾向	↘		
	11 月の発生量（平年比）	やや少		
予報の根拠		平年の発生量の推移（↘）		

調査結果

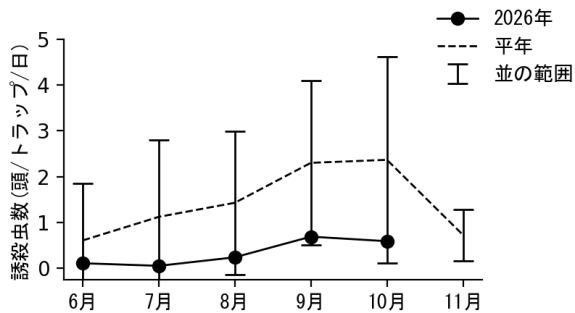
葉当たり成幼虫数の推移（今期と平年）



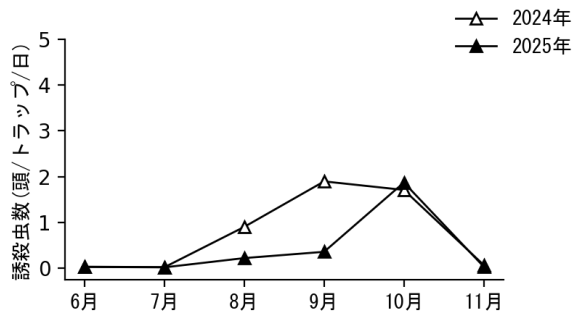
葉当たり成幼虫数の推移（過去2年）



トラップ当たり誘殺虫数の推移（今期と平年）



トラップ当たり誘殺虫数の推移（過去2年）



・発生施設率25.0%（平年：89.7%）

防除のポイント

- ・ 不要な新梢は本種の発生を助長するので、早い時期に除去する。
- ・ コミカンソウ類など、発生源となる施設内外の雑草を除去する。
- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

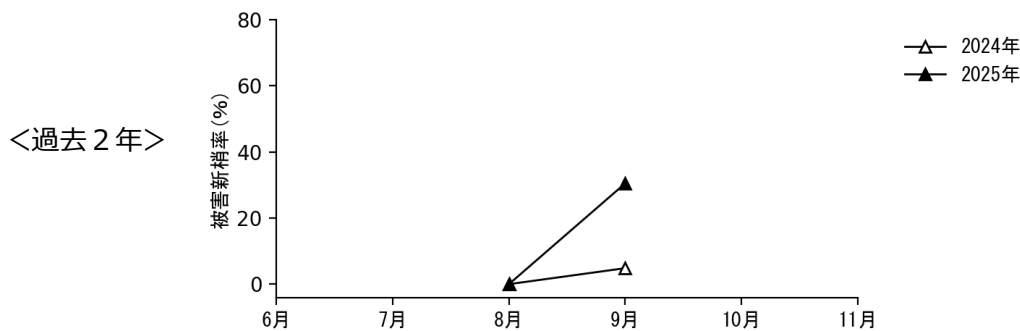
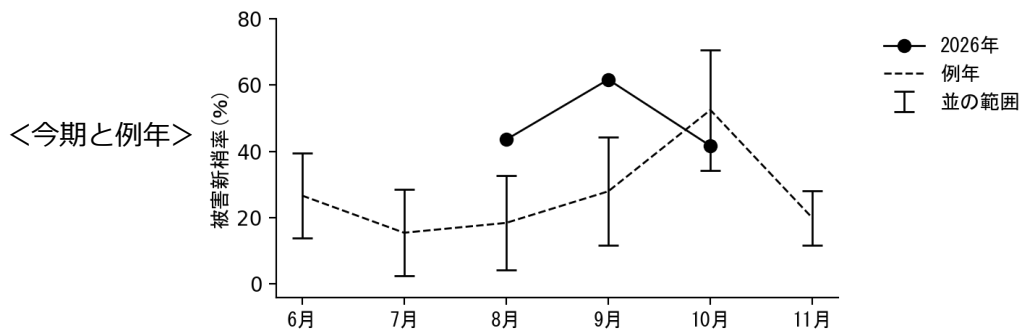


ナガエコミカンソウ

作物	マンゴー		地域	沖縄群島
病害虫名	② マンゴーハフクレタマバエ			
調査結果	10 月の発生量（例年比）	並		
予報	10 月からの増減傾向	↘		
	11 月の発生量（例年比）	やや少		
予報の根拠		例年の発生量の推移（↘）		

調査結果

寄生新梢率の推移



・発生施設率75.0%（例年：94.4%）

防除のポイント

・産卵から羽化まで約2週間と繁殖スピードが速いことから、新葉をよく観察し、早期発見・防除に努める。また高密度に寄生された葉は落葉が早く、幼虫の脱出痕から炭疽病等にも感染しやすくなることから、被害葉及び不要な新梢を除去し、施設外に持ち出し処分する。

・高湿度条件で幼虫や蛹の生存率が高まることが知られているため、施設内の湿度管理に留意する。



幼虫



新葉の虫こぶ



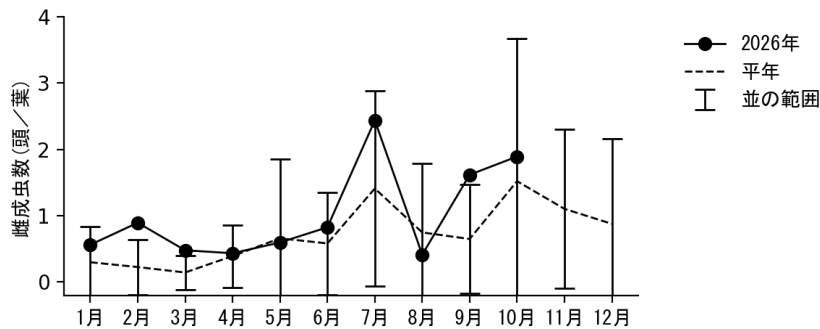
被害葉

作物	マンゴー		地域	沖縄群島
病害虫名	③ ハダニ類			
調査結果	10 月の発生量（平年比）	並		
予報	10 月からの増減傾向	↘		
	11 月の発生量（平年比）	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移（↘）		

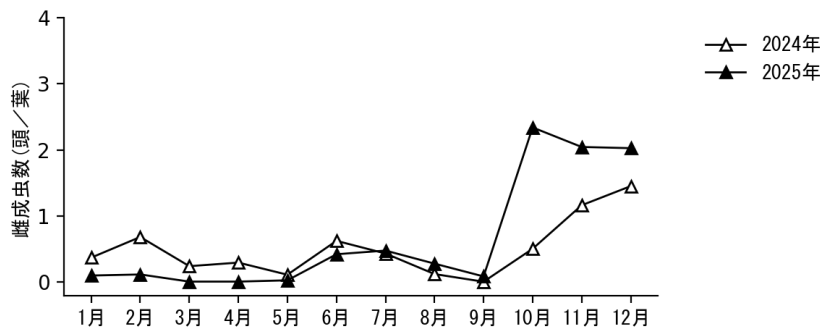
調査結果

雌成虫数の推移

<今期と平年>



<過去2年>



- ・発生種：シュレイツメハダニ、マンゴーツメハダニ
- ・発生施設率50.0%（平年：57.3%）

防除のポイント

・多発すると防除が困難となる。特に収穫時、発生が多くみられた施設では、多発する傾向があるため早期発見・防除に努める。

・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

・冬季はマシン油乳剤による防除が効果的である。

本薬剤は天敵に影響が少なく、天敵を保護しながらの防除が期待できる。

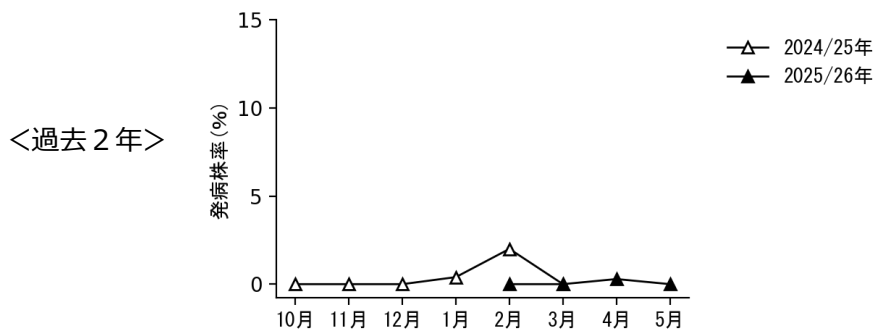
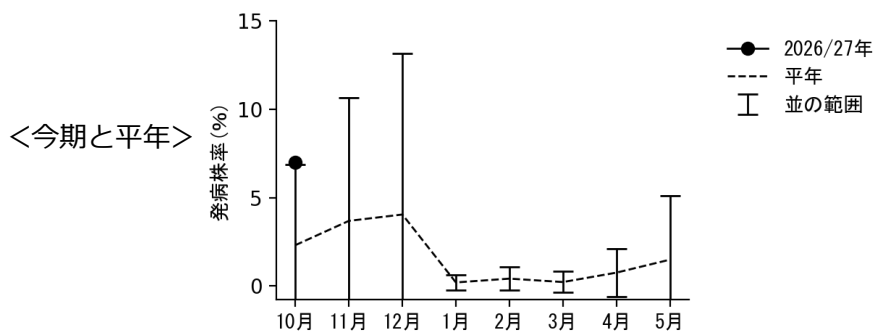


ハダニの寄生による葉のかすれ症状 マンゴーツメハダニ

作物	ピーマン(施設)		地域	沖縄群島
病害虫名	① 斑点細菌病			
調査結果	10 月の発生量（平年比）	やや多		
予 報	10 月からの増減傾向	↗		
	11 月の発生量（平年比）	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移（↗）		

調査結果

発病株率の推移



・発生施設率50.0%（平年：15.4%）

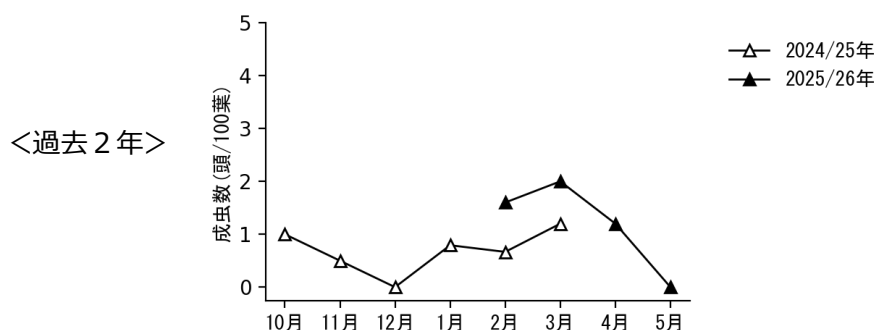
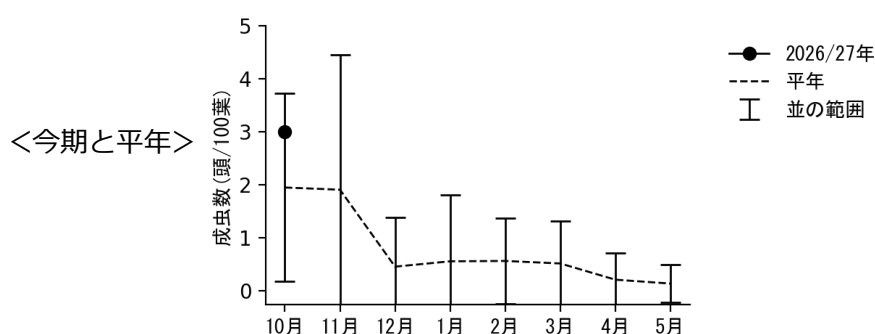
防除のポイント

- ・本病は主に葉、葉柄に褐色の斑点を形成し、時には果実や果梗にも発生する。
- ・ハウスでは排水や換気を良くし、多湿を避ける。
- ・被害植物の残さは、施設外に持ち出し処分する。

作物	ピーマン(施設)	地域	沖縄群島
病害虫名	② ミナミキイロアザミウマ		
調査結果	10 月の発生量（平年比）		
予報	10 月からの増減傾向		
	11 月の発生量（平年比）		
予報の根拠		平年の発生量の推移（→）	

調査結果

成虫数の推移



・発生施設率50.0%（平年：41.0%）

防除のポイント

- ・本種はスイカ灰白色斑紋ウイルス等を媒介する。
- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・施設の出入口や天窓は目合いの細かいネット等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。
- ・繁殖力が高く多発すると防除が困難になるため、青色粘着板等を用い早期発見・防除に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・天敵を利用している施設では、天敵に影響の少ない選択性殺虫剤を選定する。



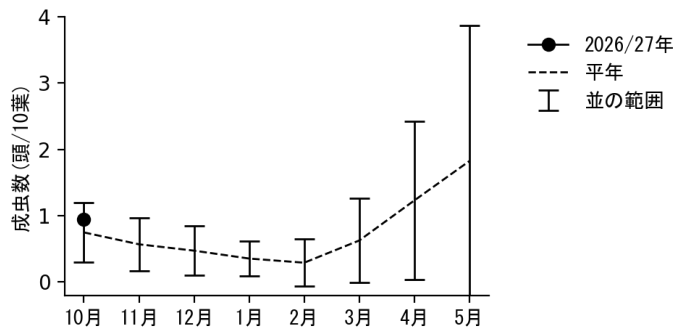
被害葉

作物	ピーマン(施設)		地域	沖縄群島
病害虫名	③ タバココナジラミ			
調査結果	10 月の発生量（平年比）	並		
予報	10 月からの増減傾向	→		
	11 月の発生量（平年比）	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移（→）		

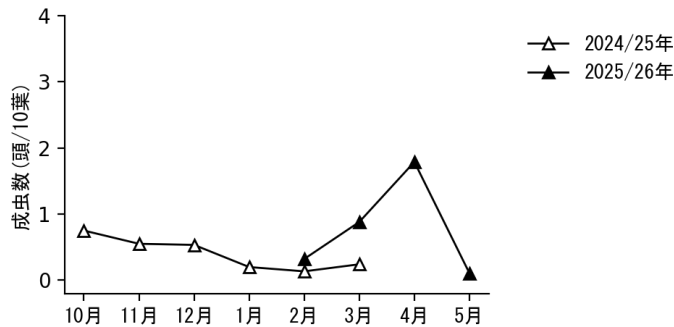
調査結果

成虫数の推移

<今期と平年>



<過去2年>



・発生施設率100%（平年：74.4%）

防除のポイント

- ・本種はトマト退緑ウイルス（ToCV）を媒介する。
- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・施設の出入口や天窓は目合いの細かいネット等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。
- ・多発するとすす病を引き起こすため、早期発見・防除に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避け、気門封鎖系等の薬剤も利用する。
- ・天敵を利用している施設では、天敵に影響の少ない選択性殺虫剤を選定する。

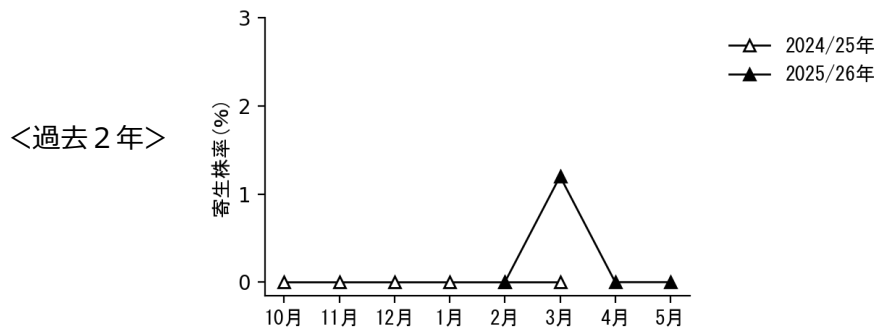
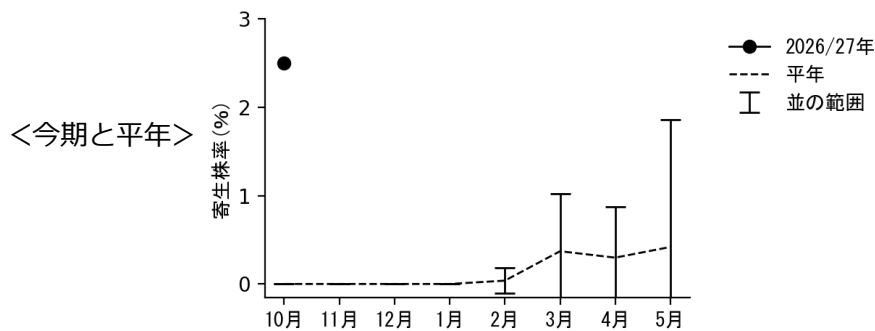


幼虫

作物	ピーマン(施設)		地域	沖縄群島
病害虫名	④ ハダニ類			
調査結果	10 月の発生量（平年比）	やや多		
予報	10 月からの増減傾向	→		
	11 月の発生量（平年比）	やや多		
予報の根拠		平年の発生量の推移（→）		

調査結果

寄生株率の推移



- ・発生種：ミヤラナミハダニ
- ・発生施設率25.0%（平年：0%） * 1施設で多発生

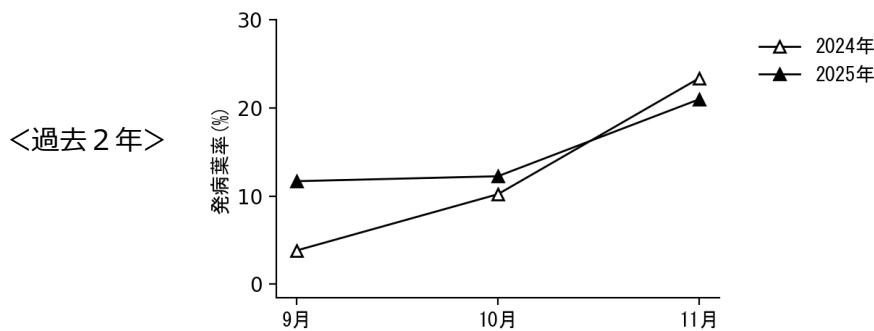
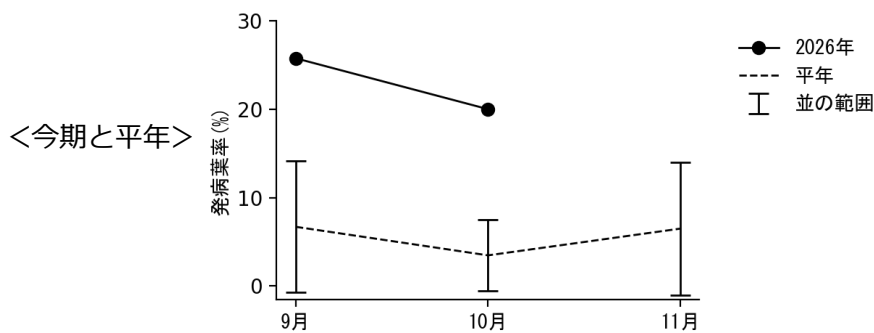
防除のポイント

- ・葉裏に多いことに留意しながら、丁寧に薬剤散布する。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

作物	小ギク（年末出荷用）		地域	沖縄群島
病害虫名	① 黒斑・褐斑病			
調査結果	10 月の発生量（平年比）	多		
予 報	10 月からの増減傾向	↗		
	11 月の発生量（平年比）	やや多		
予報の根拠		平年の発生量の推移（↗）		

調査結果

発病葉率の推移



・発生ほ場率83.3%（平年：43.2%）

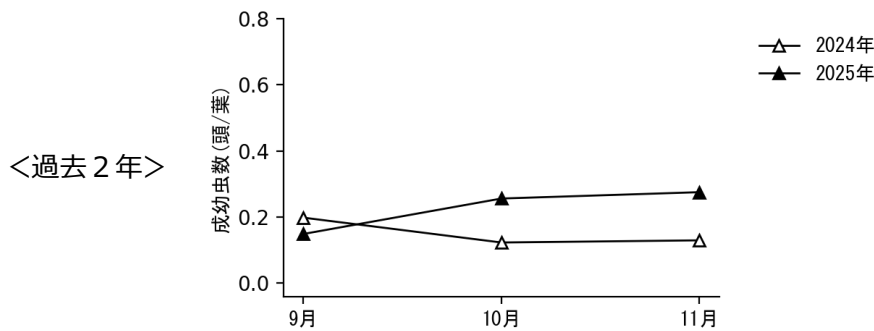
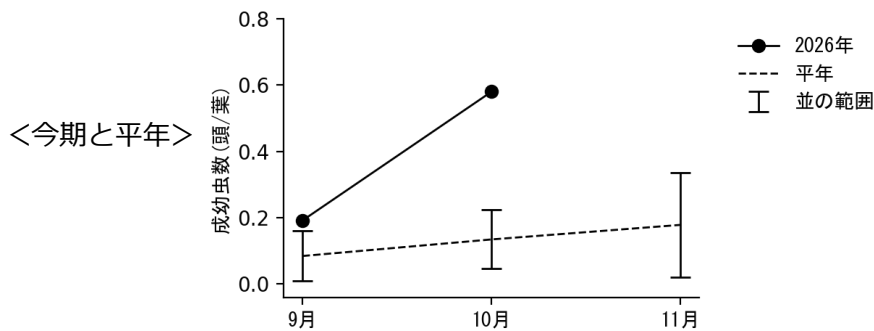
防除のポイント

- ・発病葉は速やかに除去する。
- ・ほ場の排水・通風を良くする。
- ・水滴の跳ね上がりを防止するため、敷草やマルチ等を行う。
- ・肥料切れや窒素質肥料の過用は発生を助長するため、施肥管理を適正に行う。
- ・発生が多い場合は薬剤防除を徹底する。

作物	小ギク（年末出荷用）		地域	沖縄群島
病害虫名	② アザミウマ類		 クロゲハナアザミウマ	
調査結果	10 月の発生量（例年比）	多		
予報	10 月からの増減傾向	↗		
	11 月の発生量（例年比）	多		
予報の根拠		例年の発生量の推移（↗）		

調査結果

成幼虫数の推移



- ・発生種：クロゲハナアザミウマ
- ・発生ほ場率100%（平年：95.7%）

防除のポイント

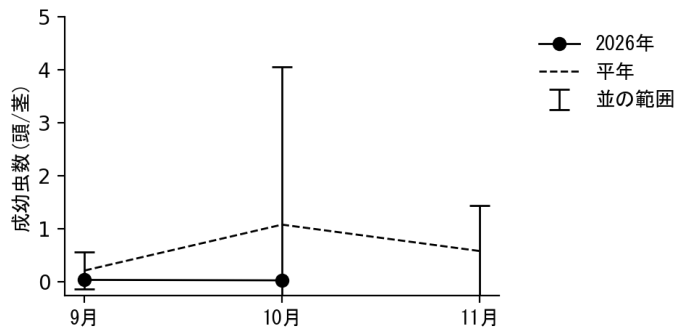
- ・定植～生育期または本虫の発生初期に粒剤を施用する。
- ・成虫は新葉や上位葉に、幼虫は上～中位葉の葉裏に多いことに留意しながら薬剤散布を行う。
- ・同一ほ場内にあるキクは、生長段階等の違いがあっても、同時に防除を行う。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいため、同一薬剤の連用を避ける。

作物	小ギク（年末出荷用）		地域	沖縄群島
病害虫名	③ アブラムシ類			
調査結果	10 月の発生量（平年比）	並		
予報	10 月からの増減傾向	↘		
	11 月の発生量（平年比）	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移（↘）		

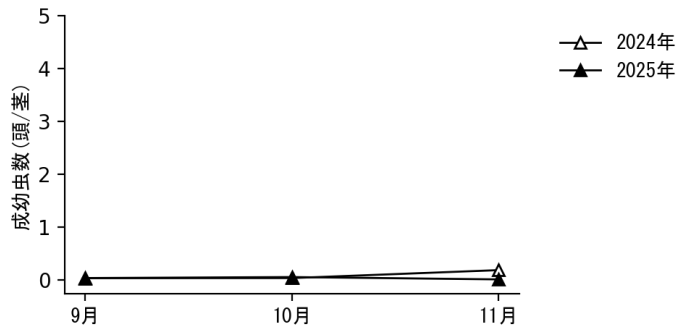
調査結果

成幼虫数の推移

<今期と平年>



<過去2年>



- ・発生種：ワタアブラムシ
- ・発生ほ場率28.6%（平年：57.9%）

防除のポイント

- ・発生源となりうるほ場内外の雑草を除去する。
- ・定植～生育期または本虫の発生初期に粒剤を施用する。
- ・発生が認められたら新葉部を中心に発生部位に薬剤散布を行う。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいため、同一薬剤の連用を避ける。

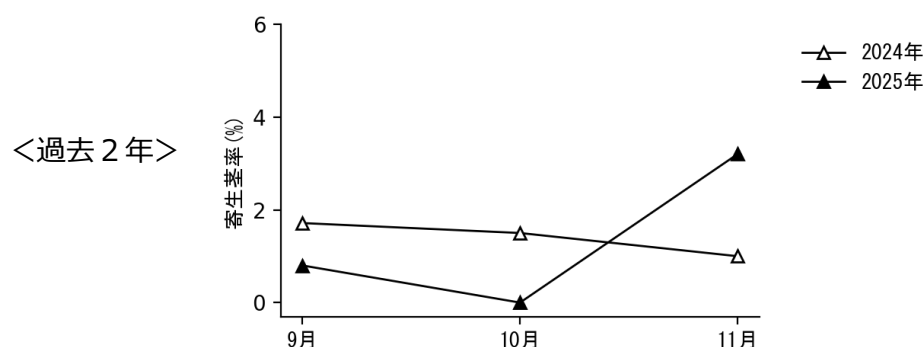
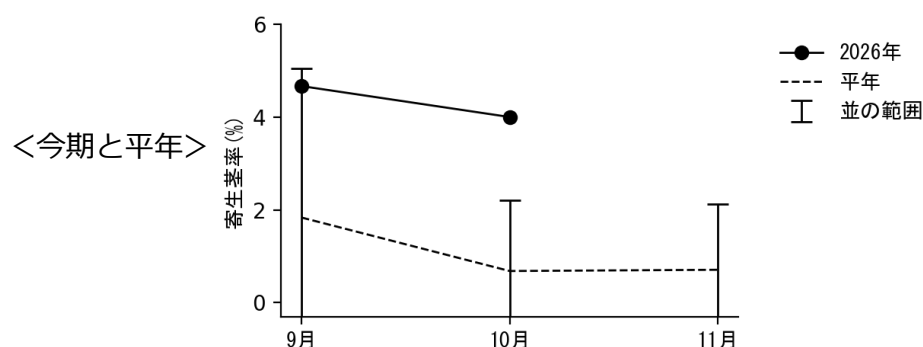


寄生の様子

作物	小ギク（年末出荷用）	地域	沖縄群島
病害虫名	④ チョウ目幼虫		 ハスモンヨトウ
調査結果	10 月の発生量（平年比）	やや多	
予報	10 月からの増減傾向	→	
	11 月の発生量（平年比）	やや多	
予報の根拠		平年の発生量の推移（→）	

調査結果

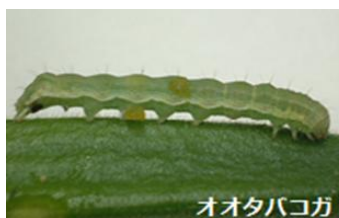
寄生茎率の推移



・発生ほ場率57.1%（平年：9.6%）

防除のポイント

- ・発生密度が低い場合は、捕殺が有効である。
- ・新しい食痕や虫糞を見つけたら近くに幼虫がいないか調べ、捕殺または薬剤散布を行う。



オオタバコガ

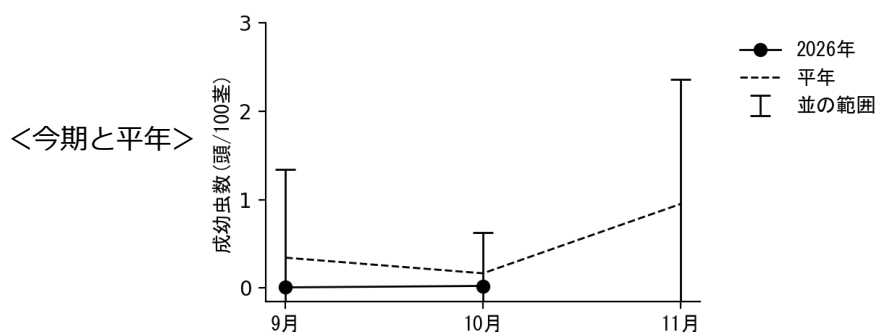


シロイチモンヨトウ

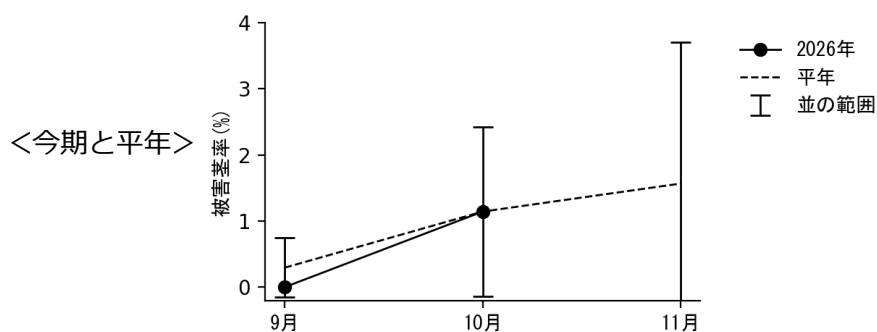
作物	小ギク（年末出荷用）	地域	沖縄群島
病害虫名	⑤ カスミカメ類	 ウスモンミドリカスミカメ	
調査結果	10 月の発生量（平年比）		
予報	10 月からの増減傾向		
	11 月の発生量（平年比）		
予報の根拠		平年の発生量の推移（↑）	

調査結果

成幼虫数の推移



被害茎率の推移



・発生ほ場率42.9%（平年：8.4%）

防除のポイント

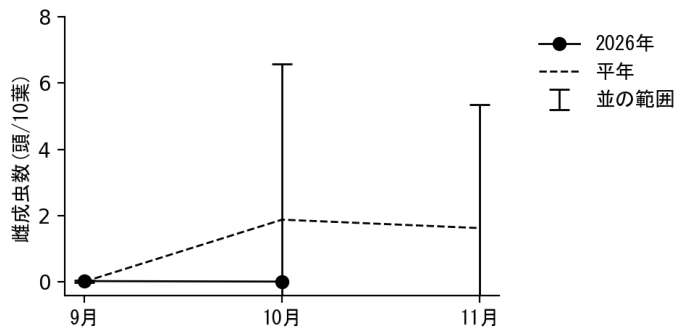
- ・ほ場周辺のキク科雑草の花等は発生源となりうるので除去する。
- ・被害株は異常分枝するため、被害が確認された場合は速やかに再整枝を行う。
- ・防除は成虫の出現初期から5～7日おきに実施する。

作物	小ギク（年末出荷用）		地域	沖縄群島
病害虫名	⑥ ハダニ類		 ナミハダニ	
調査結果	10 月の発生量（平年比）	並		
予報	10 月からの増減傾向	→		
	11 月の発生量（平年比）	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移（→）		

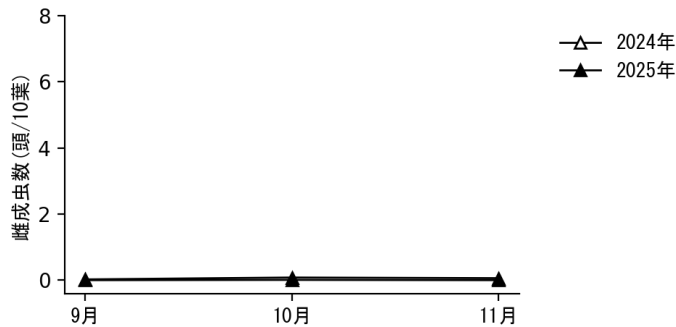
調査結果

雌成虫数の推移

<今期と平年>



<過去2年>



- ・発生種：ナミハダニ（黄緑型）
- ・発生ほ場率14.3%（平年：17.9%）

防除のポイント

- ・葉裏に多いことに留意しながら、丁寧に薬剤散布する。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。